

## 序

「論語・里仁」に「朝（あした）に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」との有名な一節があります。この一節に関しては、古来より様々な解釈がなされてきました。一般には、「道」すなわち「真理」がきわめて重要なものであることを表現したものとされていますが、一方で、死を間近に控えた孔子が、「真理」を求めるその悲壮な「思い」を表しているとの解釈もあるようです。

また、古代ギリシャ哲学の泰斗アリストテレスは、人間の本性を「知」を愛することにあると考えたとされています。このように「真理」や「知」を求め、愛することは、洋の東西を問わず、人が持つ大きな特徴の一つと考えられます。

さらに、人の「知」は、他の「知」と巡り合うことで、一層深められ、あるいは磨かれていくものと思われまふ。そのため、人は、古来より様々な方法で「知」を記録、保存、継承してきました。こうした数知れない人々の飽くことなき探究心とそれによる「知」の蓄積が、科学技術の発達や現代文明社会の形成など、人類の進歩に果たした役割は、計り知れないものがあります。

現代において、こうした様々な「知」が、図書・資料などにより集積された場所が、まさに図書館です。中でも、公共図書館は、原則としてそれらを誰もが自由に利用し、学ぶことができることから、「地域の情報拠点」と位置づけられ、また、図書・資料の提供等に加え、各種講座の開催等により、社会教育や生涯学習の重要な役割の一翼を担っています。

しかし、近年の「読書（活字）離れ」の進行や、スマートフォン・タブレット端末の普及などICT（情報通信技術）の急速な進展等により、公共図書館を巡る社会環境は大きく変化しています。

こうした中、神奈川県教育委員会では、平成28年10月に「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」を策定しました。当館では、これを踏まえ、現在、社会・人文系の「専門的図書館」及び「広域的図書館」といった従来からの機能に加え、「価値を創造する図書館」及び「魅せる図書館」といった、新た

な魅力を備えた図書館に生まれ変わるための再整備を順次進めているところです。

この「価値を創造する図書館」は、「人生 100 歳時代」における「学び」や「学び直し」の重要性に鑑み、当館の専門的な資料群を活用した「学び」により、多くの方々にそれぞれの「知」を深めていただきながら、その「知」を相互に交流させることなどで、新たな「価値を創造」していくことを目的としています。

今回の「紀要」も、図書館業務等に係る専門的な「知」の蓄積を、論文や報告という形でまとめたものです。ささやかな冊子ですが、当館職員の日ごろの研究や研鑽の結晶と言えるものですので、ご一読の上、図書館関係者をはじめ、多くの方々の「知」の交流の一助として、ご活用いただければ幸いです。

末尾にあたり、「人生 100 歳時代」における生涯学習の推進や県内図書館の振興の観点等から、今後とも積極的に取組を進めてまいりますので、引き続き当館へのご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年2月

神奈川県県立図書館  
館長 松井 聡明